

# 国際セミナー 熱帯林と CSR：生物多様性と人権の視点から ～パーム油と木材、紙製品～

東南アジアの熱帯地域には広大な単一栽培のプランテーションが広がっており、そこから日本は、パーム油、木材や紙製品等を輸入しています。プランテーション開発によって、本来守られるべき天然林が伐採され、オランウータンを含む絶滅危惧種の生息地喪失、先住民や地域住民との土地紛争、土地取引に絡む汚職など多様な問題が起きています。

本セミナーでは、マレーシアとインドネシアよりゲストを招き、プランテーションや木材産業が現地の環境と人々の暮らしに及ぼしている影響についてご報告いただきます。また、日本との関係を見たうえで、消費国日本として何をすべきか、生物多様性と人権、そして企業の社会的責任の面から考えていきます。

## OUTLINE

- 日 時： 2014年2月21日（金） 13:00～16:00
- 場 所： 国立オリンピック記念青少年総合センター（国際交流館・第1ミーティングルーム）
- 主 催： メコン・ウォッチ、国際環境 NGO FoE Japan、地球・人間環境フォーラム、サラワク・キャンペーン委員会、熱帯林行動ネットワーク、レインフォレスト・アクションネットワーク日本代表部

## PROGRAM

（予定、敬称略）

| 第1部         |  |
|-------------|--|
| 13:00       | 開会   |
| 13:05～13:20 | ビデオ「サラワク州の影の中で」(グローバル・ウィットネス制作)上映  |
| 13:20～14:05 | 報告①マレーシア「合法木材とサラワクの先住民について日本市民の良心に問う」<br>シー・チーハウ氏(マレーシア人民公正党 顧問弁護士)<br>コメント: 三柴淳一(国際環境 NGO FoE Japan)  |
| 14:05～14:15 | 質疑   |
| 14:15～15:00 | 報告②インドネシア「パーム油農園開発からオランウータン生息地を守る」<br>ハルディ・バクチャントロ氏(オランウータン保護センター代表)<br>コメント: 中司喬之(熱帯林行動ネットワーク(JATAN)) |
| 15:00～15:10 | 質疑   |
| 15:10～15:20 | 休憩   |
| 第2部         |  |
| 15:20～15:30 | 報告③「パーム油プランテーション事業への日本の銀行投融資」<br>川上豊幸(レインフォレスト・アクションネットワーク日本代表部)                                       |
| 15:30～15:35 | 質疑   |
| 15:35～15:45 | 報告④「紙原料向け植林プランテーションの問題点と対応策」<br>原田公(熱帯林行動ネットワーク(JATAN))  |
| 15:45～15:50 | 質疑   |
| 15:50～16:00 | まとめ<br>飯沼佐代子(地球・人間環境フォーラム)   |

\*本セミナーは、地球環境基金の助成金により開催します。

## 講師プロフィール

### ■ See Chee How 氏

シー・チーハウ（施志毫）氏は、2011年より州都クチン市バトゥ・リントン選挙区選出のサラワク州議会議員を務める人民公正党（Parti Keadilan Rakyat）サラワク州支部の副代表である。同党は、マレーシア連邦議会では野党だが、マレーシアの三つの州では政権党となっている。

サラワク州で開業している弁護士であり、行政法と公益訴訟を専門とする。政府、伐採会社、プランテーション会社などを相手取って提起された先住民族の慣習的な土地権に関する100件以上の訴訟を手掛けるバルピアン法律事務所のパートナーである。同事務所が扱ってきた一連の注目に値する土地権訴訟で、マレーシアの裁判所は憲法および法律の下でのサラワク州の先住民族の慣習的な土地権の法解釈の先例となる幾つかの記念すべき判決を下している。

同氏は、環境、人権および先住民族の権利に関わる政策改革を提唱するロビー活動で東南アジアおよびヨーロッパ各国を歴訪した経験も持つ。

### ■ Ken Hardi 氏

ケン・ハルディ・バクチャントロ氏は、インドネシアのジャワ島で、代々、自然との調和を大事にする農家に生まれた。幼い頃から、生活の質がいかに周辺環境に左右されるのか、家畜だけでなく蛇や鳥も含め、野生生物が農業においても、そのサイクルのなかで重要な位置を占めることに気付いていた。

写真愛好家として、自ら撮影した写真を用い、環境保護啓発を行う。パーム油プランテーション開発のために皆伐された森林や、犠牲になったコミュニティ、野生動物の密漁や違法取引について伝える活動を行ってきたが、写真だけでは動物やその生息地を守ることはできないと感じ、オランウータン保護センター（Centre for Orangutan Protection）を2007年に設立。森林減少により命を落とすオランウータンを救うべく、緊急保護、そしてオランウータンに対する犯罪行為や虐待を告発している。

センターでは、動物園のオランウータン管理についても改善のアドバイスを行い、インドネシアではすでに8つの動物園の75頭が、以前よりもよい環境で過ごせている。

